

審議会会議録

会議名称	令和4年度第1回 伊達市男女共同参画推進市民会議		
議 題	議事 ・ 概要説明 ・ 啓発資料の作成について		
開催日時	令和5年2月13日(月) 午後6時～午後7時10分		
場 所	伊達市市役所本庁舎2階 会議室A B		
出席委員	萩野 泰史 会長、四戸 幸穂 副会長、 大木 翔太 委員、尾上 明美 委員、笹山 陽子 委員、 塩谷 恭子 委員、竹村 幸雄 委員、三上 尚仁 委員、 宮本 桂子 委員、山木 麻衣 委員（計10名）		
	所管部課名	企画財政部企画財政課	
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者人数	1名
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
<p>【審議会の概要】</p> <p>1. 開 会（事務局：企画財政課長）</p> <p>2. 委嘱状交付</p> <p>3. 副市長挨拶</p> <p>4. 委員及び事務局自己紹介</p> <p>5. 会長・副会長の選出 会長に萩野委員、副会長に四戸委員を選任</p> <p>【以降、会長による議事進行】</p> <p>6. 議 事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 概要説明 資料に基づき事務局から説明 ・ 啓発資料の作成について 資料に基づき事務局から説明 <p>【質疑・意見交換】</p> <p>◆ 会長 男女共同参画全般や新リーフレットについて委員から一言ずつ意見をいただきたい。</p> <p>□ 委員 自分が所属しているサークルは会員の男女比は半々であるのに、役員は男性ばかり。役員に女性も入れたらどうかと提案し、お願いしたところ引き受けてくれた。男性だけでなく女性も交えた中</p>			

で議論し、意見を聞くのが男女共同参画なのかなと思う。自治会の役員に女性を入れるなど、身近なところから実行していくことが大事。

□委員

自治会の人数が少ないこともあるが、役員を務めてくれる人が少ない。自分が立候補したところ男性で誰かできる人はいないかと言われたことがある。意識調査で結果が出ていたとしても実際の状況は全然違う。もっと根底から変えていく必要がある。

□委員

前の職場では女性の方が現場で活躍していたが、役員や管理職は男性のみであり、男性でなければならないと言っている人もいた。一方で、職員の中には役員や管理職がなぜ男性ばかりなのかと疑問を持っている者もいた。

◆会長

その疑問は男性・女性どちらからであったのか。

□委員

男性職員から。女性は上に上がれないものと思っていたのかもしれない。女性が役員やリーダーを務められるような環境作りが必要だったと今でも思う。

□委員

自分の職場や働いている業界は圧倒的に男性が多く、男性の仕事というイメージが強い。職場では女性だからと言って下に見られたりすることはないが、仕事関係の会議等に出席していると女性の少なさを改めて実感する。この先自分のような立場の人がもっと増えていかなければならないと思うので、特に若い層に呼び掛けること大事になってくる。

意識調査の「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、「同感しない」が55%という結果になっているが、果たしてこれが多いといえるのか。7割、8割までいかなければならないのではと思う。

◆会長

昔は男性ばかりだった建設業、土木業に最近女性が関わり始めており、少しずつ門戸は開かれているが、実際の割合でみると委員の言う通りまだまだ少ない。

□委員

男女共同参画が進み男性と女性の立場が平等になった時は男性も女性も生きやすい社会になっていくと思う。

以前、結婚したら退職するのが普通である職場にいたことがあり、伊達市に戻り再就職先を探したがなかなか見つからなかった。また、多くの女性には育休取得後に元のポジションに戻れるのかという不安もある。こうした状況が女性の管理職や出世への意欲を削いでしまうことに繋がっている。

以前と比べると伊達市でも男性の育児参加についての意識が高まっているように思う。伊達市に帰ってくる人が多くなるように男女共同参画の課題を皆と話し合っていきたい。

□委員

自分の職場では女性の管理職が多くなってきているが、窓口対応などをしているとお客様の中には管理職は男性というイメージを持っている人がおり、男女平等といわれているが実際はまだまだ平等ではないと感じる。

育休については、以前は出産後一度退職し非正規雇用で職場に戻るが多かったが、最近では育休取得後引き続き正規雇用で現場復帰する方が多くなった。男性の育休取得については自分の職場ではまだない。

□委員

男性の育休については、3か月間続けて休むより、1～2年の間残業しないで帰ってきてくれる方が育児参加としては良いのかなと思う。育休中の給料などに目が行きがちだが、本当に必要なことは何かを考えることが必要。

男女関係なく自分の意見を言いやすい世の中になれば、何かをやる時に男性が何人、女性が何人ではなく、やりたい人が手を挙げた結果、後から見ると男女の数が半々だったというような世の中になるのが理想だと思う。

◆会長

確かに男性の育休については、まとまった休みより2～3年の間半休を週何日間か取れるなど、育児に参加できる体制を整えるような制度があればいいのではと以前から思っていた。

□委員

本来育児は楽しいもので、そこをどうフォローしていくかを考えていく必要があると思う。

□委員

建設業や運送業など業界によっては男性の育休取得に温度差があるように思う。より浸透させるために、市や国はもっと推進していく必要がある。

意識しているつもりでも、家事や子どもの学校関係の事は女性がやるという昔ながらの考えがどこかにあったりする場合がある。

□副会長

本日、市Facebookで「だてっこ子育てきずなLINE」の記事が投稿されていたが、お母さんとパートナーという表現が使われており、いろんな家族の形がある今、素敵な表現だなと思った。最近では将来自分の性別に違和感を持った時に選択できるよう、子どもの名前を男女どちらでも違和感のないようにつけたという話も聞く。

男性へのセクハラに関する記事も最近目にするところがある。男性だから少し雑に扱ってもという風潮がどこかにあり、気を付けなければならないと感じた。男性だから、女性だからという決めつけは相手を傷つける場合もある。

30歳未満の世代ではジェンダーに関することについて非常に関心があるそうなので、新リーフレットは若い世代が手に取りやすいようなものにしてほしい。

◆会長

DVに関して、内閣府男女共同参画局が実施した調査によると、配偶者からの暴力等の被害経験について、女性は4人に1人、男性は5人に1人という結果が出ており、想像してたよりも多い結果であった。また別の記事では、20代から40代の夫婦の男性の半数はDV被害者であるとも言われている。しかし、男女共同参画局のホームページ内のDVのページを開くと、最初に出てくるのは女性へのDVについて。男性に対するDVについても思っている以上の割合で存在している。男女共同参画の取組の中でこの問題がどれだけ周知されているのか疑問に感じるところ。

7. その他

特になし

8. 閉会